

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【de-escalation】

英 de-escalation

類 抗菌薬の狭域化

【用語解説】

de-escalationは抗菌薬適正使用において重要な役割となっている。この言葉の概念は2005年のATS/IDSA（米国胸部疾患学会/米国感染症学会）院内肺炎ガイドラインで示された。感染症治療で使用する抗菌薬の選択方法は、大きく分けて経験的治療（エンピリックセラピー）と標的治療（デフィニティブセラピー）の二つに分類される。前者は、原因菌が判明するまでの間に、感染部位により想定される菌を広くカバーする比較的広域なスペクトラムをもつ抗菌薬を使用することを言う。後者は、原因菌が培養で同定され、菌の感受性や感染部位への移行性などを考慮して最適な抗菌薬を使用することを言う。それまで使用していた広域抗菌薬を、より狭域スペクトラムの抗菌薬に変更すること、つまりエンピリックセラピーからデフィニティブセラピーへ切り替えることをde-escalationと呼ぶ。

近年では抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。2015年の世界保健総会では、薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プランが採択され、これを受け、2016年に本邦初めての薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが策定された。さらに、2018年度の診療報酬改定より小児抗菌薬適正使用支援加算や抗菌薬適正使用支援加算の算定が可能となり、病院内外で抗菌薬適正使用が強化されている。そのため、de-escalationという言葉聞く機会が増え、身近な言葉になりつつある。

参考資料：

国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議：薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2016-2020：

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/00_00120769.pdf

8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員会：抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス：

http://www.chemotherapy.or.jp/guideline/kobiseibutuyaku_guidance.pdf

（茨城東病院 感染制御専門薬剤師 上田真也）

本誌293 pに記載